緑の地球　第108号　2006年3月15日発行　1998年8月5日第3種郵便物認可　年6回・奇数月15日発行　年間購読料2,000円（送料含む）定価300円
発行：認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク　〒552-0012 大阪市港区市岡1丁目4-24 住宅情報ビル5F　TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
IP電話 050-3119-0204　郵便振替　00940-2-128465　E-MAIL：gentree @ s4.dion.ne.jp　URL（ホームページ）：http://homepage3.nifty.com/gentree/

緑の地球
GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

渾源県県城（92年撮影）。自転車が悠々と道の真ん中を走っているが、いまでは拡幅された道路を車が埋めている。

Contents

●気候変動と地球の将来 …… P 2
●会員総会・写真コンクールのご案内 …… P 3
●雲南のNGO ～カワクボ文化社 …… P 4
●小川房人さんを偲ぶ …… P 7

2006.3
108
認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク

GENに参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『よみがえる森』を見る　☆書き損じハガキ・古切手を集めて送るetc.　★あなたのご参加を待っています！

気候変動と地球の将来

小島　敏郎（環境省地球環境審議官）

「今年の冬は、とても寒くて、地球温暖化なんてどこかにいってしまったんじゃないか」というほど、2005年から2006年にかけての冬は「記録的な」寒さと豪雪でした。気象の専門家によれば、今年の寒さは北極の寒気が長い間日本に居座ったことが原因であり、豪雪は日本海に流入する海水の温度が暖かくなっていたことがその原因です。実は、この10年ないし20年をとると、日本では、「記録的な暑さ」だけでなく「記録的な寒さ」も更新しつつあります。地球温暖化の過程では、気候攪乱が生じて、「平年並み」が少なくなるのです。

「記録的な」現象は、暑さ寒さだけではありません。雨の降り方も「記録的な豪雨」や「記録的な干ばつ」を繰り返します。都市部での道路冠水や各地で地滑りによる被害の頻発は、日本でも異常気象による災害への「適応策」が必要になっていることを示しています。対策の前提である雨の降り方が変化しているわけですから、その備えも変化しなければなりません。しかし、想定できない異常気象への備えは、まさにその発生が想定できないのですから、被害の拡大を防止することは容易ではありません。

このような異常気象現象は、日本だけのことではありません。ヨーロッパでは、毎年のように、干ばつ・大規模な山火事の発生、そして一転しての大洪水の発生など、異常気象現象が起こっています。アメリカのハリケーン・カトリーナの分析も、現在行われています。北極圏の温暖化はもはや常識になっており、グリーンランドの氷河の融解は現実の脅威となっています。

緑の地球ネットワークは、黄土高原の緑化に地道で、大きな成果を上げています。毎年の雨の降り方や虫の発生、様々なことに注意しながら、植えることから育てることまで、一貫して努力を続けています。しかし、緑の地球ネットワークの努力も、今後は、あるいは、もう既にそうかもしれませんが、地球的規模での気候の変化や異常気象の頻発という現在の事態と無関係ではありません。

一般的に言えば、温室効果ガス排出量の飛躍的な増加が、地球温暖化、気候変動をもたらしていることは、疑いがありません。緑の復元や拡大に努力されている方々も、珊瑚や鳥の保護に努力されている方々も、そして、企業の方々も、気候変動をもたらす温室効果ガスの削減と、避けることができない気候変動に対する対策を考え、行動しなければならない時代となっています。

多くの困難を乗り越え、成果を上げてこられた緑の地球ネットワークが、15周年を迎えられたことに対して、敬意を表しますとともに、今後とも、困難を発展の糧として、大いに発展されることを期待します。

15周年をむかえて

～記念行事にご参加ください

緑の地球ネットワークが黄土高原で緑化協力をはじめたのは1992年1月ですから、15年目にはいっています。地元における植栽の適期は春で、ことしの春のツアーは15回目ですから、いまの時期から15周年というのも、さほどおかしいことではないでしょう。

振り返ってみると、いろんなことがありました。初期は事情もよくわからず、失敗つづきでした。もうだめかな、と思ったことも何度もありました。それでも大同の現地に優秀な人材が集り、徐々に実績が上がるようになってきました。とくに双方の関係の良好さは、訪れる人が驚くくらいになっています。日本側の活動も徐々に軌道に乗りだしたのは、たくさんのみなさんの参加と支持のおかげです。

中国側でも今年1年間にむかえるツアーにたいして特別の歓迎体制をとり、また折々に記念の行事を展開するそうです。

日本側でもこの春からほぼ1年間、15周年記念事業を展開したいと思います。日中関係が悪化し、私たちの活動も試練が避けられないなかでのことですから、実質を重んじ、今後の活動に役だつことを第一に考えたいと思います。

その1つとして、これまでの協力活動をさまざまな角度から切り取った写真コンクールを開催いたしますので、ぜひ積極的にご応募ください。これについては次頁を参照してください。

また秋に、大同のカウンターパートを日本に呼んで研修を実施し、その機会にさまざまな交流を繰り広げたいと思います。4年ぶりの実施で、カウンターパートが総工会に交替してから最初の機会になります。

関東では、日ごろから環境問題に熱心にとりくみ、一昨年は国連環境計画（UNEP）親善大使として大同の私たちのプロジェクトを訪れた加藤登紀子さんのトークショーを計画しているところです。

みなさんの積極的な参加をお願いいたします。（高見）

GEN事務局からお願い

春は新しいスタートの季節。進学、就職、転勤などで引っ越しをされる方もおいでだと思います。新住所、電話番号、メールアドレスなど、新しい連絡先をGEN事務所までお知らせくださるようお願いします。

また、市町村合併で住所表記が変更になった方もご一報ください。

緑の地球ネットワーク 第12回会員総会のご案内

このあいだ10周年の写真展を開催したばかりだと思うのに、もう15年がやってきました。今年は久々の訪日団も予定しています。そのほか、いくつかの記念イベントを企画しているので、会員・協力者のみなさん、ぜひご参加ください！

会員総会後の記念講演は、94年の第1回専門家調査団のメンバーで、乾燥地緑化にくわしい前中久行さんにお願いしました。そのほか、緑化協力現地の大同のようすをご覧いただけるようなプレゼンテーションを計画しています。まだ大同に行ったことがない方、長く大同を訪ねていない方、また、最近訪れた方、みなさんにお楽しみいただけるように工夫をこらします。好評の懇親会も予定しています。どうぞご参加ください。

【緑の地球ネットワーク
第12回会員総会】

●日時：6月17日（土）13時30分～19時
○会員総会：13時30分～14時40分
○記念講演：15時～16時20分
前中久行さん（大阪府立大学院教授）
○プレゼンテーション“大同・2006”
16時30分～17時
○懇親会:17時10分～19時。軽食つき。
会費1,500円（予定）
●場所：大阪市立総合生涯学習センター第1研修室（大阪駅前第2ビル5階各線「梅田」駅、JR「大阪」駅／東西線「北新地」駅）
★懇親会の企画・世話係を募集しています。希望者はGEN事務所までご連絡ください。

郵便振替手数料（窓口扱）値上げについて

4月3日から郵便振替サービス料金が変更になります。

窓口での払込の場合は30円値上げになります。ATMご利用の場合は現行のままです。

GENの場合、会費、寄附等には赤い払込用紙で送金していただき、料金はGENが負担しています。会費の場合、窓口で手続をすると120円、値上げ後は150円になりますが、ATMをご利用いただくと60円ですみます。今後はできるだけATMで送金していただき、料金負担が少なくてすむようみなさんのご協力をお願いします。

緑の地球ネットワーク15周年記念
黄土高原写真コンクールのお知らせ

緑の地球ネットワークは今年で15年目をむかえました。この間、ワーキングツアーなどで大同を訪れた人はのべ2,000人を超えています。そこで、15周年を記念して写真コンクールを開催することにしました。あなたの思い出の写真をぜひご応募ください。受賞者には協賛団体提供の豪華賞品（!?）をプレゼント！　古い写真も大歓迎です。GEN会員でない方もご遠慮なく！

●対象：GENの緑化協力地・大同の協力プロジェクトをワーキングツアーや視察等で訪問した時に撮影した写真。参加したいけど写真がない、という方はエピソード賞（400字以内。タイトルをつけてください）にご応募ください。
●締切：5月10日（当日消印有効）。6月の会員総会で受賞作を発表します。
●応募方法：氏名※、現住所※、電話番号※、メールアドレス、参加ツアー名、ツアーに参加した年・月、写真タイトル※、写真説明※、撮影日時※、撮影場所を明記して（※印必須）GEN事務所までプリントまたはデジタルデータを送付してください。大きさは、プリントはL版から六つ切り。デジタルデータは長辺が1600～3072ピクセル（211万画素が1600 1200ピクセル）。1人3作品まで。プリント､CDは郵送。eメールの場合は、画像ファイルはJPG形式にして添付、本文に氏名等を記載して送付してください。郵送された応募作品は返却しません。
●協賛：OFS（オリエンタルランド労働組合）、サントリー労働組合、他交渉中

【送付先】緑の地球ネットワーク
（〒552-0012 大阪市港区市岡1-4-24-501
TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
E-mail：gentree@s4.dion.ne.jp　URL
http://homepage3.nifty.com/gentree/）

※応募作品の活用、および個人情報の取り扱いについて

応募作品すべてを、応募者の氏名、写真タイトル、写真説明、撮影日時、撮影場所を添え書きしてCDに収録し、応募者全員および協力者、協賛者に送付します。

応募者の氏名、写真タイトル、写真説明、撮影日時、撮影場所は、GENの製作する印刷物、写真パネル、ウェブサイトで、また、他団体に写真提供をする場合に、作品にそえて公開することがあります。応募者の連絡先は、このコンクールに必要な連絡時およびGENの会報や活動紹介・案内等を送付するために使用し、ほかの目的には使用しません。

雲南の NGO ～カワクボ文化社～

上田　信（GEN 世話人・立教大学教授）

ふもとの村から望むカワクボ山

雲南西北部の徳欽県にカワクボ山が、そびえている。2004 年 6 月、カワクボ山麓の氷河を訪ねた。例年、雲南西北部は乾期となり、山を拝むことができるはずだった。ところがこの年は異常で、雨が降り続き、山を望めず、数日後に氷河の村から徳欽の町に戻ったのは土曜日。地元の人から得た情報では、その夜に町のロータリーでチベット族の踊りの集いがある、主催者はカワクボ文化社という地元の小さな NGO だという。

日暮れどきに広場に行くと、雑貨屋のなかで数人の青年が丹前のようなチベット族の着物を身につけ、旋子（チベット族の弦楽器）の調律をしていた。小雨が降るなか踊りの輪に加わる人は少なく、結局、文化社の人たちだけが弦子を腰に当てて奏でながらステップを踏み、掛け合いで歌っていた。

こんな地味な活動をしている文化社はどんな NGO なのだろう、私は気になり連絡を取ることにした。カワクボ文化社代表の木梭（ムースオ）さんは、シカのような眼をした青年だった。

雲南のチベット族は、村に戻ればチベット語で生活しているのだが、チベット文字の読み書きはできず、チベット文化に触れる機会も少ない。他の少数民族のなかには、しっかりと自分の文化を身につけている人がいる。自分たちはなぜ自分の文化を知らないのか、それではいけない、まずチベット文字を学ぶところから始めようと、読み書きの学習会を作った。しだいに参加する人の輪が広がり、一歩すすめて文化を考える勉強会を立ち上げた。チベット族が信仰するカワクボの山にちなんで、カワクボ文化社と名付けた。

チベット族の若い世代は、自分の文化の価値に気づいていない。村で受け継がれた芸能には目もくれず、ディスコ風にアレンジされた曲に会わせて踊るようになった。文化社のメンバーは伝統的な歌と踊りを尋ねて山村を巡り、ようやく電気も来ていない村を発掘し、録音技師と発電器を含む機材を担ぎ上げ、録音した。発売したそのテープの反響は大きかった。しかしすぐに海賊版が出回り、赤字になってしまった。

カワクボ文化社主催の踊りの集い

それでも、続ける。6 月から 10 月まで毎週土・水曜日は欠かさず踊りの集いを開く。最初は興味本位で取り巻いていた人が、自分の文化の面白さを分かり、踊りの輪に加わるようになってきたのだから、と木梭さんは屈託なく語ってくれた。

『森林の市』ご案内とボランティア募集

4 月 29 日、30 日に日比谷公園で開かれる『第 17 回花と緑の感謝祭　森林市』に緑の地球ネットワークは今年も関東ブランチが活動パネルの展示などで参加する予定です。緑に触れる「みどりの日」、お近くの方、GW に東京方面においでの方はぜひご来場ください。

また、当日ブースのお手伝いをしてくださる方を探しています。お願いしたいことはパネルや備品などの運搬、会場の設営、撤去、来場者への GEN の活動案内や物品の販売などです。短時間でもけっこうですのでぜひ手を貸してください。運搬、設営をしていただける方は下記にご連絡をください。

当日の飛び入り参加も大歓迎です。直接会場にお越しください。

2006 年「みどりの感謝祭　森林の市」

- 日時：4 月 29 日（土）30 日（日）10:00 頃～ 17:00 頃
- 場所：東京都立日比谷公園（にれのき広場周辺　雨天決行）
- 主催：農林水産省・林野庁・東京都・国土緑化推進機構・日本緑化センター・東京緑化推進委員会
- 問い合わせ・ボランティア受付
  宮下（GEN 会員）sinjurie@hotmail.com
  047-452-6770（自宅）

※ GEN 関東ブランチメーリングリストに参加されている方はそちらでもエントリーを受け付けています。

緑の地球ネットワーク年会費……一般会員＝ 12,000 円・家族会員＝ 6,000 円・学生会員＝ 3,000 円

人と樹木の関係を再考

～「樹形と冬芽の観察会」報告～

佐藤　俊一（GEN 会員）

気持ちよく晴れわたった 1 月 29 日、河内長野市の「花の文化園」でおこなった「樹形と冬芽の観察会」には、31 名が参加しました。葉を落としてくっきりと樹形を見せている木々を観察しながら、前中久行さんの興味深いお話をうかがいました。

私は会員歴 10 年近くなるのだが、未だ中国植林ツアーの参加を果たせず、せめて自然観察会ぐらいはと、何回か参加させていただいている。

今回の自然観察会は、河内長野市郊外にある「府立花の文化園」でおこなわれた。

1 月 29 日の真冬であったが天候に恵まれ、持ってきたカイロをつかわずにすんだ。

前中久行大阪府立大学教授のガイドで園内を巡りながら、いろんな樹木の名前とそれにまつわるエピソードなど楽しく興味深い話を先生から聞くことができた。

例えば、通常我われがおもう「桜」のイメージは「ソメイヨシノ」の品種であり、他の桜と異なり葉より花が先に咲くので華やかで、またいっせいに咲いていっせいに散るいさぎよさが日本人の大和心の象徴とされている。先生の話をきくと、「ソメイヨシノ」は江戸末期に交配され、接木により日本全国に広がったハイブリッドでクローンの木であるとのこと。それならば、それ以前の人はソメイヨシノを知らないとすると今の人とは違った感覚で桜におもいを寄せていたのだろうか。桜を愛でた西行法師がソメイヨシノでなくてどの桜の下で最期をむかえたのか私には想像できない。

また、ソメイヨシノが日本で一番遅く開花する場所はなんと八丈島ときき、冬の寒さの時期があってはじめて開花が促されることなど知った。

昼食をはさんだ後はセミナー室で樹形や芽の講義があった。

樹形は木の種類によってもちろん異なるが、1 本の木でも若いときはまっすぐ上に伸び、壮年になって横へ広がり、老年になって丸みを帯びた樹形になるというのは人間の一生とよく似ていると感じた。ただ、どんな植物にも規則にあてはまらない例外があると先生は強調されていたが、変わり種や「はみだしもの」がどこの世界にもあるのはおもしろい。生物の多様性の妙味であろうか。

動物と違って植物は移動が容易でないぶん環境の影響を受けやすいし、また環境に適応しようとしている姿がうかがわれる。樹木のほとんどは人間社会のつながりのなかから今日の姿があるのだから、あらためて人と樹木との共生の大切さを感じた。

旬の人　この人

林 靖介さん（羽曳野市）

活動を始めて 15 年かあ、早いですね。まだ設立準備会であったとき、事務局にいた林です。全く新たな、それも国境を越えた活動の立ち上げに少しですが参加でき、いい経験になりました。

同時にそれは私がどう生きるのかを選択する時でもあり、正式発足と同時に家具製作の道に転身しました。できあいの思想ではなく、自らの身体に根付いた技術が欲しかったのです。

技術専門校での木工の基礎訓練、これは実に楽しかった。始発の電車で「早朝出勤」。深閑とした校舎でのカンナの刃の研ぎは、朝の礼拝といった神聖な雰囲気さえありました。

「家具作家」を志向して 12 年。私も未知の領域で悪戦苦闘の連続でした。まあそれでも多くの方々に助けられてやって来れました。様々なクラフトの公募展で入選入賞もし、大阪工芸展では審査員もさせていただき、また GEN 副代表の有元さんの紹介で大阪市立クラフトパークの講師もしています。ようやく山一つ越えたかなっていう感じですね。

黄土高原には 92 年以来一度も行ってませんし、GEN の活動にも参加してないですね。まあ自分の根拠地を固めるのに精一杯でしたから。でもそろそろ再び現地に行ってみたいなあ。どんなに変わっているか見届けるのが楽しみです。

千早赤阪のギャラリーにて

今後もよりいっそう素晴らしい活動を続けてください。

黄土高原史話〈29〉

文帝覇陵は未盗掘？

谷口　義介（摂南大学教授）

いま塀の中のＨ前社長、取調べ以外の時間はもっぱら読書、『史記』も差入れてもらったとか。おそらく、「貨殖列伝」あたりを熟読しているのでは。

つられて（？）当方、「酷吏列伝」を読んでみた。そしたら、何と

孝文園（文帝の陵園）の瘞銭（死者のため墓に埋める銭）を盗掘した者がいた。（小竹文夫・小竹武夫訳）

という記事に遭遇。

つまり前回、「文帝の覇陵は、過去に盗掘されたという記録はありません」と断言したのは、間違いだったということに。

そもそも、山西の田舎の殿様が皇帝となり、「仁君」と称され、陵墓には「墳を築かず」「山川を損わ」なかったばかりか、陵園（墓域を区切る外周の部分）の内側に「柏樹を稠く植え」たとくれば、“黄土高原の環境と森林”がコンセプトの本シリーズ、文帝の墓は盗掘にあわなかった、と締めたくなろうというもの。

意（情？）余って筆がすべるのは、褒められたことではありません。

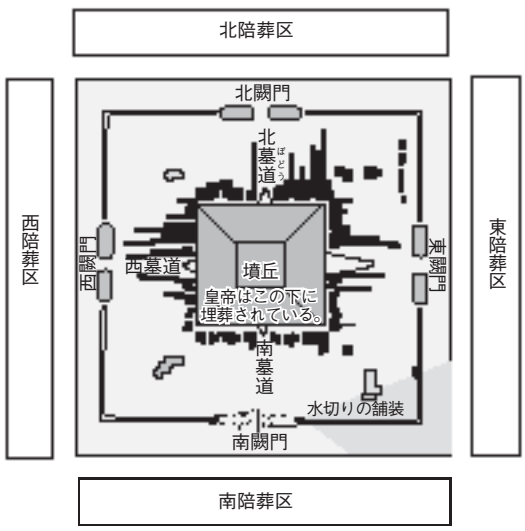
ただ、「酷吏列伝」の古注によると、瘞銭というのは陵園の四隅に埋める副葬品の貨幣のこと。覇陵の陵園は、『咸寧県志』によれば、「周囲三百丈」（約900メートル）あったという。盗掘者はそのコーナーから失敬したわけだ。ですからこの場合、始皇帝の驪山陵・武帝の茂陵のように墓の本体が発かれたとはいえません。

ちなみに事件発覚後、陵園から銭が盗まれたのは、四季ごとに御陵を巡察する丞相の責任とて、ときの丞相荘青翟は武帝の前に伺候して陳謝、武帝は調査を命じています。

「酷吏列伝」には、盗掘の話がもう一箇所。

王温舒は陽陵（陝西・咸陽の東）の人である。若いとき、塚をあばいたり、その他さまざまな悪事をはたらいた。（同上訳）

のち役人となり酷吏として辣腕を振るうわけですが、陽陵邑といえば文帝の子の景帝の陵墓があったところ。景帝陵＝陽陵は、文帝覇陵と違って平地に築かれ、底部が一辺170メートル、頂部が一辺50メートル、墳丘の高さ31メートルの覆斗形。外周する陵園は一辺410メートル。その周囲に陪葬墓が5000基以上点在、と。王温舒が若いころ荒したのは、おそらく群小の陪葬墓だったのでしょう。盗掘という前科が、役人としての出世の障害になったようにはみえません。



景帝陽陵平面図

いますぐできるGENへの協力

◆会員になってください！

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動をささえてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

◆カササギの森に参加してください！

1ha分5万円を1口として寄付を募っています。落葉広葉樹や花木も植えられ、多様な展開をみせる実験林場“カササギの森”、来年度いっぱいで植え終わる目処がつきました。参加するなら、いまのうちです！

◆緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんの応援をお願いします。

◆ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの活動紹介を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員は4,000円（送料別途）です。教材にも好適。小学校高学年から。

◆古切手回収

古切手を集めています。切手の周囲を5mm～1cm残して切り取り、お送りください。普通切手、記念切手、外国切手、なんでもＯＫ。未使用も歓迎！

◆書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

◆商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りください。

◆ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

◆出版物を購入してください

『ぼくらの村にアンズが実った－中国緑化協力の10年』高見邦雄著／日本経済新聞社／本体価格1,600円（GENでは1,600円＋送料で取り扱っています）

『雁棲塞北』（『ぼくらの…』中国語訳）李建華・王黎傑訳／国際文化出版公司／GEN取り扱い価格1,000円（送料別）

『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』橋本紘二写真集／東方出版／本体価格6,000円（GENでは送料込み6,000円で取り扱っています）

※ご注文はGEN事務所まで。

GEN 顧問　小川房人さんを偲ぶ

立花　吉茂（GEN 代表・花園大学客員教授）

去る 2 月 3 日 GEN 顧問の小川房人さんが突然亡くなられた。事務局長の高見さんからの電話が最初の通知だった。続いて大阪市立大学からやや詳しく連絡が入った。そして、奥様から詳細な電話をいただいた。昨年 12 月から胃の具合が悪いといっていたが、精密検査で膵臓ガンが肝臓にまで転移していることがわかったのは年が明けてからだったとのことであった。2 月 6 日の葬儀には GEN から私と有元幹明副代表、太田房子さん、前川宏さんが弔いに参加した。

小川さんは広島県出身で京大農学部をでて生態学の大御所吉良竜夫教授の右腕として大阪市立大学にながく勤められ、その間付属植物園長、自然史博物館館長をつとめられた。生態学の物質生産の分野とくに熱帯林の物質生産量の研究が専門で、そのバイオマスの推定には驚くべきカンの持ち主として定評があった。学生時代には京大の農学部で作物の遺伝などの研究をされ、理学部ではめずらしく農学博士である。リュックサックを背負って植物園へやってきて「密度実験」をやるというので見ていたら、リュックから出てきたのは種子としての大豆だった。「こんなに大量に、どこに蒔くんだ」と聞いたら、密度効果をみるから大量に要るんだという。もっとも密度の高いところには 1cm 角に 1 粒蒔くのだからものすごい量が要る。農業の常識では考えられないことだから皆が驚いたのも無理はなかった。

小川さんには、たくさんの逸話がある。海外調査で相手国の許可や協力を得るために役所に行くと、大臣クラスの人の横に座ってしゃべりだし、相手がわかろうがわからなかろうが、おかまいなしに毎日座り込んでしゃべりまくるのである。そして困難な許可も獲得してしまうのである。これは彼の特技（？）といえるかもしれない。ご本人に聞いた話だが、食事の会話中に相手が日本人クラブの話をしているのに日本のクラブ（カニ）はおいしいですよ、と話をしていたら「けげんな顔をされた」と笑っておられた。

私は植物園で彼の参謀役だったからいろいろの思い出がある。園内の仕事は部下に任せっぱなしだが、園外で無理な仕事をひきうけてきておいに困ったことが再々あった。最高首脳がひきうけてしまったら部下が取り消しにいってもなかなか取り消せない。立場が反対なら取り消しも可能なのだと説明しても「どうも腑に落ちない」という顔をしておられる場合が多かった。しかし、どんな仕事をしても一切文句はださず、その点はきわめて自由だった。

私と古生物学の粉河さんと小川さんの 3 人は同年で、3 人並んで定年退職の挨拶をしたのはついこの間のことのように思い出されるが、もうお 2 人ともあの世に行ってしまわれた。あの世に行ってもニコニコと愉快なお顔で楽しんでおられるに違いない。謹んでご冥福をお祈り申しあげる。

定年退官祝いの帰路の小川さん（右）と筆者（左）
（1990 年 3 月 13 日）

自然と親しむ会　馬が瀬で自然と緑の日フェスティバル

「NPO 法人自然と緑」による滋賀県比良山麓・琵琶湖畔の馬が瀬での行事に参加させていただきます。

「自然と緑」は馬ケ瀬国有林を「ふれあいの森」として植林や間伐などの森林整備や野外活動を続けています。GEN も間伐作業に参加しておなじみです。今回はいくつかの団体と地元の人たちも参加予定とか。春まっさかりの比良の自然のなかで、汗を流し、交流を楽しみませんか。

●開催日：4 月 30 日（日）
●日程：午前 10 時集合。開会式。作業（ヒノキ間伐、広葉樹の除伐、下草刈り）。野外パーティー（山菜、琵琶湖の水資源などを食材に）。午後はクラフト、自然観察、シイタケ打ち込み作業など。
●参加費：一般 1,000 円、中高生 300 円、小学生無料。
●参加申込み：4 月 24 日（月）までに GEN 事務所に電話・FAX・E メールなどでお申し込みください。くわしいご案内を送ります。

2006　夏の黄土高原ワーキングツアー予告

黄土高原ワーキングツアーの特徴は、地元の人とともに木を植えるだけでなく、数々の活動拠点を訪ねること。環境林センターや白登苗圃、実験林場“カササギの森”…。大きく広がったソフト面の協力をごらんください。

夏のツアーの予定はつぎのとおり。費用などまだ確定ではありませんが、参加をお考えの方は参考にしてください。

●日程：7 月 29 日（土）～ 8 月 5 日（土）8 日間
●費用：一般＝ 19 万円、学生＝ 18 万円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、空港使用料、GEN 年会費を含む。個人行動時の費用、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料は含まない。変更になる場合があります）※中国国際航空利用　※関西空港発着　※成田便利用の方は航空運賃の差額が別途必要です。
●訪問先：中国山西省大同市（北京経由）
●定員：30 名
※募集は 5 月ごろ開始します。

情報ひろば いろんなかたち

＊当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
＊当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

AMネット10周年記念イベント
～グローバル経済から、命、暮らし、自然を守る～

人とつながる、地域とつながる

米国のシンクタンクNPOからゲストを招き、グローバル経済の問題について話をうかがいます。身近で実際に活動する方たちにもお話しいただきます。自分の生活も、地域の活動も、世界の問題も、すべてつながっているんです。

●日時：3月26日（日）14時～17時
●ゲストスピーカー：ビクター・メノッティさん（International Forum on Globalization）、商店街・福祉・農業の現場で活動される方々
●場所：大阪NPOプラザ（大阪市福島区吉野4-29-20　TEL. 06-6460-0268　阪神電鉄「野田」駅・地下鉄「野田阪神」駅から徒歩10分）
●参加費：800円（AMネット会員500円）
★事前申し込み不要
●主催・問合せ：（特活）AMネット（〒531-0064 大阪市北区国分寺1-7-11 国分寺ビル6F　tel./ fax. 06-4800-0888　e-mail：apec-ngo@mxa.mesh.ne.jp　URL http://www1m.mesh.ne.jp/~apec-ngo/）

六甲奨学基金のための第９回古本市

古本をアジアからの留学生・就学生の奨学基金に役立てませんか。

●受付期間：3月31日まで（必着）
●送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】
・汚れ・破れのひどいものは不可。
・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、百科事典などは不可。

●送り先・問合せ先
（財）神戸学生青年センター古本市係
〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1
tel. 078-851-2760　fax. 078-821-5878
e-mail : info@ksyc.jp
★六甲奨学基金のための第９回古本市
●3月15日～5月15日まで毎日開催　9時～22時

土佐文旦をどうぞ

低農薬、有機栽培です。ご進物にも。

A	5kg	3L	8～9玉	3,500円
B	5kg	2L	10玉前後	3,000円
C	5kg	L	12玉前後	2,500円
D	5kg	M	15玉前後	2,000円

10kg箱もあります。お問い合わせください。

●出荷：4月上旬まで
●送料別途。関西630円、関東840円（20kgまで）。
●お申し込みは田中隆一さんまで。
〒781-7411 高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL./FAX. 0887-29-2500
※売り上げの一部をご寄付いただいているので、ご注文の際「GENの紹介」とひとこと添えてください。

編集後記

15周年記念黄土高原写真コンクールのPRをかねて、会報の表紙に昔の写真をつかおうと古い写真をひっくりかえしていたら、万里の長城をバックにしたツアーの記念写真がでてきました。左端に写っているのは小川房人先生です。順番にお顔をみていくと、なんと物故された方が4人もおられて、15年という歳月をしみじみ感じました。

写真コンクールへのご応募、お待ちしています！　（東川）